

「2018 年度研究活動一覧」 発刊に際して

工学研究科長 福井一俊

「工学部・工学研究科研究活動一覧」は、1990 年度に発刊が始まり、この刊で 29 回目となるようです。2007 年からは印刷物だけでなく電子形式としてホームページからも見られるようになり、昨年度版から収録期間が暦年から年度に完全に変更になっています。

この巻が平成最後となります。昨年度と同じことを書いて恐縮ですが、この研究活動一覧の発行形態や収録期間の変化は工学部・工学研究科を取り巻くこの 29 年の環境変化を反映しています。特に、論文が暦年で分類されているにも関わらず昨年度から収録期間を年度で区切るということは「評価」の側面が強くなっていることを意味しています。人口減少・国家の財政状況の逼迫から来ているのであろうジリ貧の状況下で、国費の有効利用の観点から、評価が重要視されるのはある意味自然ですが、評価が目的化しつつある現状こそジリ貧を表しているように思えます。しかし、ステークホルダーに我々の活動がどの様に論文として社会に還元されているかを示すことは大事なことです。また、なにより、我々工学部・工学研究科の一人ひとりの活動が冊子として成立することは嬉しいことですし、この先の活動を確信するものであります。

最後に、研究活動一覧が今年度も無事に刊行できたのは、田嶋委員長をはじめとする編集委員皆さんの尽力によるところです。この場を借りて感謝申し上げます。